

能登棚田米通信 Vol.1 令和3年4月

◎能登棚田米生産者部会研修会を開催しました

3月5日に、能登棚田米生産者研修会を開催しました。収量確保に向けた「初期生育の確保」「中干しの適期実施」「土づくりの実施」、斑点米対策としてほ場の雑草管理と出穂後2回防除の重要性について学びました。特に土づくりについては、アグリラインの塩口先生を講師に招き、土づくりの重要性について理解を深め、令和3年産の米作りのスタートを切りました。



研修会の様子（奥能登行政センター）

◎今後の管理のポイント

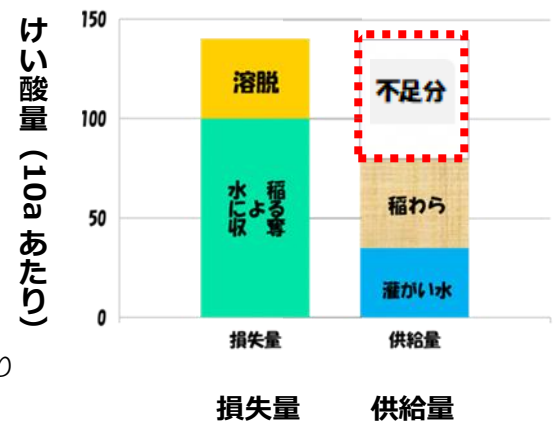
◆土づくり資材の施用

まだ間に合う！

- 春の耕起時の土づくり資材の散布により、必要成分の補給を行いましょ。特に水稻はけい酸を多く吸収するため、年々不足していきます（右図参照）。不足分は土づくり資材で補いましょう。



能登にやさしい土づくり
45kg/10a散布



◆70株/坪植えて植えましょう

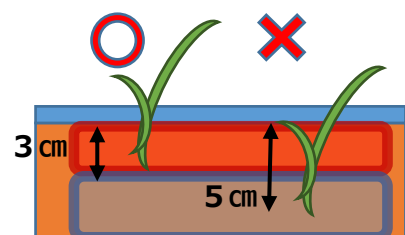
- 棚田は標高が高く、山陰になりやすいため、初期莖数が増えにくいほ場条件です。疎植は穂数不足を招きますので、**70株**/坪植えて莖数を確保しましょう。

◆植付け本数は3~4本/株で植えましょう

- 苗1本あたりの分けつの発生が早く、穂になる莖が発生しやすくなります。太植えは生育にバラつきが生まれ、莖が細くなり、倒伏や品質低下を招きやすくなります。

◆植付け深度は3cm程度の浅植えて植えましょう

- 浅植えすることで、稲の根部が温まりやすく、分けつが発生しやすくなります。深植えは分けつの遅れを招きます。



裏面に続きます

◎その他、能登棚田米や栽培管理のことでご不明点等ございましたら、お近くのJAまたは、

奥能登農林総合事務所までお問い合わせ下さい。

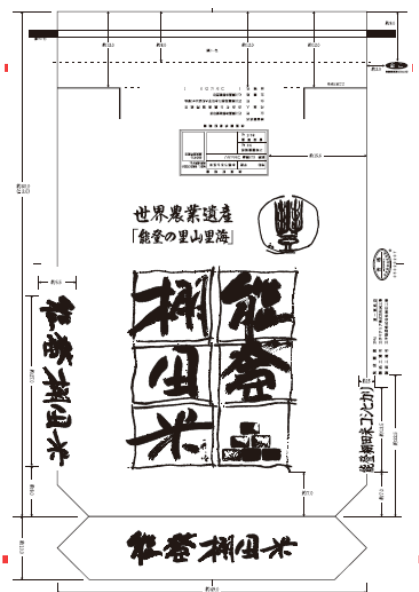
お知らせ

◎能登棚田米の米袋が変更になります！

令和3年産より、能登棚田米の米袋が「能登棚田米」専用のもにに変更になります。さらなるブランド力の向上を目指して、関係機関一体となって取り組んでまいります。

※詳細は追って連絡させていただきます。

「能登棚田米」専用米袋図案→



注意！

令和3年
春の農作業安全確認運動(3~5月)の実施について

「見直そう！農業機械作業の安全対策」

毎年、全国で300件近くの農作業死亡事故が発生しています。特にトラクターによる事故が多く、荒起し・代かき作業のある3~5月に集中しています。事故を防止するためには、生産者一人一人が安全意識を高めるだけでなく、周りからの「声かけ」で一層の事故防止意識を持ってもらうことも必要です。農作業前には、みんなで声をかけあい、安全であることを確認して作業しましょう。

